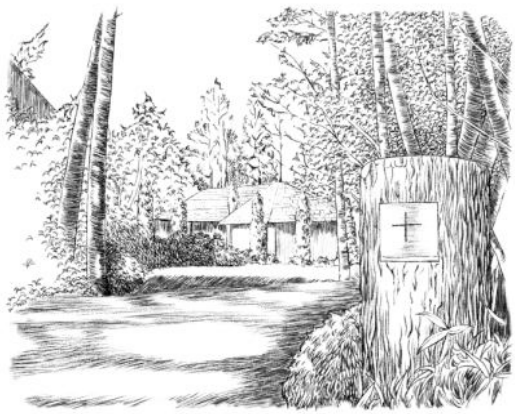
八ヶ岳の風

２０１５年　第３２号
三位一体ベネディクト修道院



日本のキリスト教と三位一体ベネディクト修道院ハイライト

ローマン・パワー院長

米国ミネソタ州カレッジビルのセント・ジョンズ 修道院は、三位一体ベネディクト修道院を閉じるという難しい決定を２０１４年１２月に行いました。この決定は、日本において共同体を継続することは困難であると言う明らかな兆しに基づいた、私達富士見共同体の勧告を支持するかたちで行われました。その理由は、共同体のメンバーの高齢化とセント・ジョンズ修道院から修道士を新たに派遣することが出来なくなったこと、長期的にリーダーシップを取り、ベネディクト霊性に従った養成が出来る日本人の修道士が不足していること、更なる召命が見込めないことです。

共同体の活動は少しずつ縮小しておりますが、少なくとも来年夏までは教区への奉仕を続け、ゲストハウスにお客様を歓迎できることを希望しています。私達の日本における公的な位置づけを締めくくるものとして、お別れの感謝ミサを計画しております。日程が決まり次第、招待状とともにお知らせいたします。

キリスト教は１５４９年イエズス会の司祭フランシスコ・ザビエルとポルトガルの宣教師数名によって日本にもたらされました。それに続いてスペイン人のフランシスコ会員とドミニコ会員が宣教に携わりました。聖フランシスコは日本の南にある九州の種子島に到着しました。宣教師達は喜んで受け入れられ、５０年のうちにおよそ１３万人が洗礼を受けました。

しかしこの改宗は次第に国の統一を脅かすものと看做されるようになりました。江戸時代に入る前の１５８７年に大公豊臣秀吉は「バテレン追放令」を交付し、イエズス会員を国外に追放し、キリスト教徒を迫害しました。その１０年後には、イエズス会員、フランシスコ会員、一般信徒からなる２６人が長崎において人々の目前で十字架に架けられました。現在２月６日に記念されている殉教者です。日本において公にキリスト教が認められた時代は１６１２年に劇的に終焉を迎え、徳川幕府はヨーロッパの宣教師を追放し、カトリック信徒を処刑し、いわゆる「隠れキリシタン」と呼ばれる時代になりました。

カトリックの教えは５５人の信徒が再び長崎において処刑された１６２２年に公的に禁止されました。信徒達は明治時代の１８７３年に宗教の自由が公に認められるまで、隠れて信仰を実践しました。１８５３年にマシュウ・ペリー、１８５８年にハリス・テュリーティ艦隊が到着したことにより、特別居留地を設置し、ポルトガル、スペイン、フィリピンとの貿易を公に開始し、外国人が日本に住む許可を出し、それが宗教の自由の回復へと導きました。

私達ベネディクト会修道士は、セント・ジョンズ修道院と東京大司教区が東京目黒に聖アンセルモ修道院小教区を設立した１９４７年の秋、日本における宣教の扉を開きました。セント・ジョンズ修道院は、独ベイデン・ブーテンベルグのボイロン大修道院から来日し、１９３１年に設けられた施設に最後まで残った２人の修道士、ヒルデブランド・ヤイゼル師とジョセフ・シュメールバッハ師の要請に応えて、この活動に力を注ぎました。

日本でベネディクト会の設立が最初に試みられた１９３６年までに、ボイロンから来日した８人の修道士が、東京の南に位置する神奈川県の茅ヶ崎の近くに建てられた木造の建物に住みました。しかし、最初の著しい進歩と楽観的見方は、経済的困難、内部に漂う意見の相違、言葉を習得する難しさ、司牧の限界、召命の皆無、また戦前におけるドイツと日本での政治的、社会的混乱のうちに高まる外的な力と相まって、数年のうちに衰え始めました。１９３９年の冬、ボイロンの共同体は日本のミッ

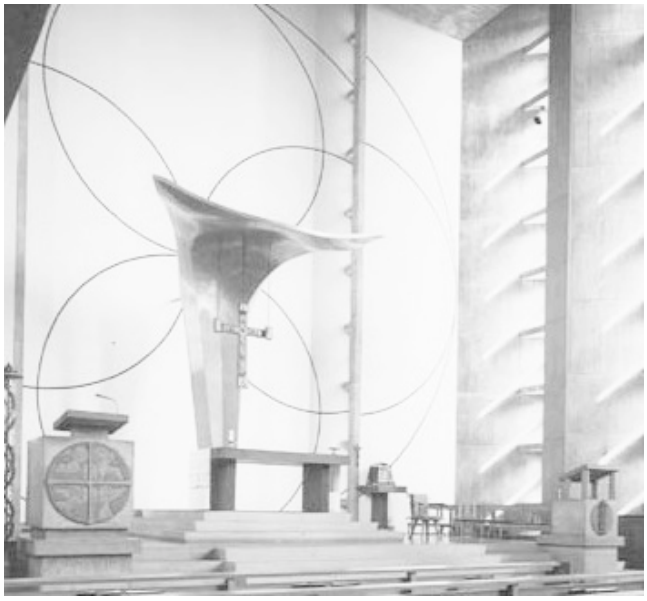
ションを閉じる決定をしました。殆どの修道士が韓国徳源にあるボイロンの韓国地区に加わりましたが、その共同体はその後、朝鮮戦争によって破壊されました。少数の修道士はフィリピンとブラジルに残りました。１９４２年までに茅ヶ崎の所有地は日本軍に売却されました。

１９４５年８月、ヒルデブランド神父とジョセフ神父（この２人はドイツとスイス国籍であったため、日本に滞在していた。）は、アメリカの１５のベネディクト修道院を訪問し、助けを求めました。セント・ジョンズ修道院は、日本におけるベネディクト修道院を再建するためにアルクイン・ドウッチとボールドウイン・ドウボルシャックがその院長職にある間、修道士を送り続け、先ず新しい修道院を建て、次ぎに目黒に教会を建てるために資金を送りました。

目黒での修道院活動は、終戦後約２０年間に急速に増加したカトリックへの改宗者に対する司牧に携わることでした。短期間に数百の家族に成長した新しい小教区への奉仕に加えて、近隣の多くの非キリスト者の親は、敷地内にあった聖アンセルも幼稚園とプログラムを高く評価していました。

（ヒルデブランド神父とジョセフ神父）

聖アンセルモ修道院のアメリカ人修道士達は、言葉を習得するために多くの時間を費やしましたが、その多くは日本語を学ぶことの困難とフラストレーションを経験していました。修道院内の言葉と生活は英語が中心になりました。日本人の召命は失望的でした。５２年の間に、２人の日本人、２０１３年に心臓発作で亡くなったペトロ川村英成と、パウロ多田真人が終生誓願を立てました。召命が限られていることは、日本のベネディクト会の将来にとって大きな関心事でした。



（目黒教会）

キーラン・ノーランが指導的立場にあった１９９０年代初期に始められた度重なる会議において、共同体はテイモシー・ケリー院長　(彼は日本のミッションとして、中国への新しい第一歩を開く窓を提供することを思い描いていました。)の勧めに伴い、東京における司牧を閉じて、ベネディクトの修道的生活に重点を置き、その結果召命が増えるであろうと修道士が希望した計画として、富士見に移転することを決定しました。

目黒の資産を東京大司教区に移転したことにより得た資金とセント・ジョンズ修道院の支援によって、富士見の土地を購入し（アイザック修道士によって約１２年前から調整されていました。）、高垣建次郎氏によって新しい修道院が設計され、１９９９年に建物は完成し、修道士達が入居しました。（目黒教会はその守護聖人である聖アンセルモの保護のもと奉仕を続けており、またカトリック東京国際センターの拠点でもあります。）

（目黒時代の修道士）

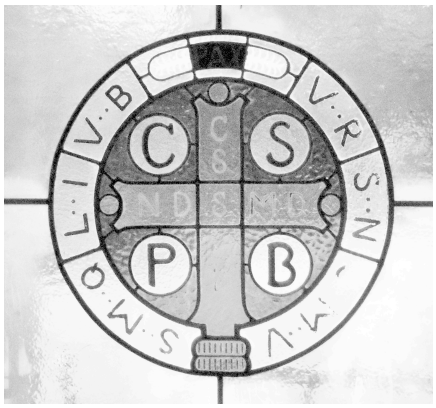
修道士達は、どのように生活し、祈り、共に働くかと言う、それぞれが意義深い問題をもたらす３つの決定的に重要な点について問いかけながら、共同体を新しく造り上げていくために、富士見において年数を費やしました。召命を探る人々がドアを叩き、初めての志願者が短期間滞在するまでに更に８年かかりました。修道院での生活は少しずつ日本的になり、典礼は日本語で行われています。過去７年間、富士見共同体は有期誓願者を含めた爆発的な召命への関心と楽観的な見通しを楽しみました。彼らのうち殆どの人は改宗者で、ベネディクトの生活を試み、有期誓願を立てましたが、全員が富士見における終生誓願から退いてしまいました。その中で唯一、中国人のヨハネ・クリゾストモ ロン・リーティンは昨年３月に終生誓願を立て、セント・ジョンズで勉強を続けます。

（三位一体ベネディクト修道院）

毎日の祈りと院内の労働に加えて、ゲストへの対応、毎週日曜日には近隣の教会に依頼され、横浜教区の日本人、フィリッピン人、ポルトガル人の信徒のために、トマス・ウォール、ウィリアム・スクドラーレックと私は交代でミサを司式、トニー・ゴルマンは那須のトラピスト女子修道院付き司祭として司牧的奉仕、その他、霊的指導、司牧的会議、黙想など、現在の非常に限られた日本語力で出来る限り携わっています。オブレートは約３０人おられ、毎年修道院で２日間の黙想会に参加しています。修道院ホームページを通して最新情報を伝え、霊的なサポートを提供しています。

富士見の修道士達は、ゲスト対応、建物、庭の管理、客室準備、洗濯、植物の世話、床の清掃とワックス、窓拭き、典礼の司式、毎日の説教、料理、共同体やゲストのためのパン焼き、芝刈り、野菜や花作り、雑木の整理、雪かき、車の点検、旅行に必要な準備、会計、食料の買い出しなどを含め、生活に必要な全て行なっています。過去数年間、修道院は文化的な催しを無料で行いました。ピアノ、オルガン、琴によるクラシック音楽、ギターコンサート、弦楽合奏、グレゴリアン聖歌によるミサ、子供向けクリスマス行事等に参加するため、多くの人々が喜んで修道院と町立図書館講堂に集まりました。

１９４７年以来、目黒と富士見で３３名の修道士が日本の人々に奉仕して来ました。日本における共同体は、福音の旗印のもとパートナーとして私達と共に働いた日本人の信徒達に恵まれました。私達はまた、日本の歴史の過渡期に、感謝の心に満ちた多くの人々の生活の橋渡しとなる恵みを与えられました。私達の証しは成功も、その逆の結果も味わいました。そして状況の変化のために、もはや日本の地と文化の中で共同体として存続出来なくなった今、ベネディクト修道士が皆様と共に過ごした時を思い出し、感謝の心を抱いて下さる多くの人々がおられることを私達は知っています。修道士達は信徒の方々が示された信仰、思慮深さ、その寛大さに深い感謝の念を抱いております。私達は皆様のために祈り続けます。



†修道院連絡先

399-0211
長野県諏訪郡富士見町富士見 3105-1
三位一体ベネディクト修道院

ホームページ　www.osb.or.jp
メール　fujimi@osb.or.jp
電話　0266-62-8770
ファックス　0266-62-8765

日本で奉仕したセント・ジョンズの修道士
St John's Monks Serving in Japan - Meguro and Fujimi

ヒルデブランド・ヤイザー　院長
+Hildebrand Yaser, Prior　1931-83
ジョセフ・シュメールバッハ
+Joseph Schmerbach　1936-84
ブンド・ソー
+Bundo Soh　1945-55
エミール・ブトウルイル
+Emile Butruille　1954-65
ガブリエル古田
+Gabriel Furuta　1957-68
ニール・ローレンス
+Neal Lawrence　1960-04
コナン・モウホウ
+Conan Mawhorr　1961-64
ニコラス・セーレン
+Nicholas Thelen　1970-10
アロイジオ・マイケルズ　院長
+Aloysius Michels, Prior　70-71,80-92,99-02
パトリック岡田
+Patrick Okada, Prior　1974-77
アイザック・コネリー
Isaac Connolly　1979-86
(オド・ハース　院長)
(Odo Haas, Prior)　1979-82
アンドリュウ・ゴルツ
Andrew Goltz　1983-91
ペトロ川村　院長
+Peter Kawamura, Prior　1984-13
ジェームズ・ザー　院長
James Zaar, Prior　1979-86
キーラン・ノーラン　院長
Kieran Nolan, Prior　1986-11
クリゾストム・キム
Chrysostom Kim　1986-93
マルセリーノ伏島
Marcellino Fusejima　1988-93
フィニアン・マクドナルド
Finian McDonald　1989-92
ルイジ・ベルトッチ
Luigi Bertocchi　1989-91
トマス・ウォール　院長
Thomas Wahl, Prior　1990-91,93-Present
ウイリアム・スカドラーレック
William Skudlarek　1994-01,12-15
パウロ多田
Paul Tada　1995-Present
エドワード・ベブルン
Edward Vebelun　1999-12
ジェフリー・フェックト
Geoffrey Fecht　2002
アンセルモ唐沢
Anselmo Karasaw　2003-06
ローマン・パワー　院長
Roman Paur, Prior　2004-Present
トニー・ゴルマン
Tony Gorman　2006-Present
ガブリエル奥
Gabriel Oku　2009-11
フランシスコ下瀬
Francisco Shimose　2009-12
マクシミリアム岡
Maximilian Oka　2009-15
アンドリュウ・ラム
Andrew Lam　2010-12
ドミニコ高橋
Dominic Takahashi　2010-12
ヨハネ・クリゾストム・ロン
John Chrysostom Long　2010-Present

†お知らせ

・11 月中、亡くなられた方のためにお祈りします。ご希望の方はお名前をお知らせ下さい。

・ミサ　毎日午前 11 時半から

・新たにお知らせするまで、黙想宿泊をお受けします。

・オブレート会合予定　11 月 23 日 10 時 - 4 時
会場　幼きイエス会
千代田区六番町 14－4
03－3265－9718